

四賀元気プロジェクト

地元の強みを活かした「松茸四賀サイクリングツアー」を開催

四賀は松本市の東北に位置し、山菜やきのこなどの山の幸が豊富なところ。特に松茸は四賀ブランドとして有名で、秋の松茸直売所には立派な松茸が並ぶ。自然豊かで環境は素晴らしいが、一方で人口減少に悩んでいる。しかし、Iターン者は増加しており、都会の人が求めている「四賀の魅力」を発信できれば観光客などが訪れ、活性化できるのではないかと考え、多くの団体が関わりながら四賀の今後を模索している。今回は振興委員の溝口さんに、「1回だけではなく、継続できることをしたい」と10月11日（土）に開催された「松茸四賀サイクリングツアー」について聞いた。

「地元の強み」を知ったのは、四賀を走っていたロードレーサーに「上り坂・下り坂・平坦な道が程よくあり、自然が多く安全で走りやすい」と聞いたことがきっかけである。スタッフに自転車レース経験者はいなかったが、松本市内で自転車ショップを運営する鈴木雷太さん（シドニー五輪日本代表）のアドバイスを得ながら準備を進めた。

右も左もわからない中、「参加者をがっかりさせたくない」と弁当や慰労会の料理に力を入れ、名物の松茸なども振る舞った。参加者には大好評で「ぜひ次回も！」という声が多くあり、「ハードルを上げすぎてしまった」と溝口さん。しかし、この「おもてなし」がイベントの継続につながると期待もしている。

今回はスタッフの年齢層が高く、人数も少なかったため、運営は大変だったが、開催する度に関わるスタッフの輪が広がり、若い人たちが盛り上げるイベントに成長していくのが理想だ。愛着があれば長続きし、協力する人も増える。そのためにはやはり「継続」が必要だと考え、今のところはこのままの規模でとにかく続けることを目標にしている。

このイベントが四賀の魅力を県内外に広めるだけでなく、Iターン者と地元住民の交流のきっかけとなり、「いつか一大イベントになって、住民が沿道で参加者に旗を振るようなイベントになったら嬉しい」と地域全体を巻き込んだ活性化に向けて、第一歩を踏み出した。

振興委員：丸山則行、溝口清水、金井治夫、草田章夫